

基礎経済科学研究所

大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第890回ゼミ報告] 2024年11月22日号

1970年代の学生時代、アルバイトは夏・冬・春の休みにするものだった。今の学生は通年でバイトをしているとか、闇バイト=犯罪バイトまで……
11月13日のゼミは、斎藤幸平『マルクス解体』第6章「マルクスと脱成長コミュニズム-MEGAと1868年以降の大転換」を川口さんの報告で行いました。従来のマルクス主義アプローチは、人新世の経済・環境危機への対応不十分。晩期マルクスのMEGA抜粋ノートの重要性、再構築。エンゲルス版『資本論』の問題性、MEGA研究で軽視されていた晩期マルクスの再検討。史的唯物論の経済決定論、生産力主義とヨーロッパ中心主義。マルクスのエコロジー：地質学・化学・鉱物学等、エコロジカルな資本主義批判。1868年以降、非西欧社会に対する論調変化。非資本主義的農業と土地の共同所有制、特にロシア研究の焦点。資本主義を経ることなく、ロシアに社会主義建設が可能かどうか。マルクスの手紙草稿：ミールが残存している限り、資本主義成立を回避するチャンスはある、だからロシア人は蜂起すべきだ。農業共同体が西欧の労働運動と結合するなかで、資本主義化の道を経ることなく、直接社会主義に至ること可能。ザスーリチへの手紙草稿の重要点：歴史経過の複線化、西欧コミュニズムの展望そのものの変容。モーガン『古代社会』研究、チェルヌイシエフスキーの影響、ロシアの農業共同体を基盤とした社会。定常型経済の共同体の持続的安定、人間と自然の持続可能性、自然科学と共同体の研究、史的唯物論の放棄。マルクスのポスト資本主義の最終展望=脱成長コミュニズム。
討論では、「史的唯物論の解体」の節には「唯物史観」の言葉も出てくるが、2つの違いは何か、いずれも英語では、historical materialism だが。社会主義へは生産力の発展が必要か。生産力の内容が問題、「生産力主義」の否定。資本の生産力はゆがんだ生産力、公害・原発・リニアなど。人々のための生産力を提示。人口の減少、少子化。地球の気候危機は先進国から。会場参加は小野さん・川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さん・田中(興)さんの合計8名の参加でした。

* 11月27日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 848 3281 6949 パスコード: 599554

* 『マルクス解体』は12月ゼミで終わる予定です。次のテキスト、取り上げてほしい本など、いくつか候補の推薦をお願いいたします。

***** ゼミ日程 *****

11月27日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

佐々木『資本論第3巻』第4章 商品資本・貨幣資本…転換 竹内さん

12月11日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『マルクス解体』7章 脱成長コミュニズムと富・・後藤さん

12月25日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

佐々木『資本論第3巻』5章 利子と企業利得・利潤の分裂 報告者未定
その後 2025/01/08, 1/22, 2/12, 2/26, 3/12, 3/26 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso